

「バスまちば」広がる

岐阜信金とバローHD参画



岐阜市、6カ所新設 来月

路線バスが停留所に到着するまでの間、利用客が近隣の店の敷地内で待つことができる岐阜市の「バスまちば」の取り組みに、新たに岐阜信用金庫(同市)とバローホールディングス(HD、多治見市)が参画した。12月19日に2者の店舗を含む6カ所が新設され、市内のバスまちばは24店舗に拡大する。

(大賀由貴子)

停留所近くのコンビニなどにバスの到着を待つ人の待機空間を設け、利便性を高める取り組みで、市総合交通協議会と民間施設、岐阜乗合自動車、市の4者で連携して行う事業。

市役所で協定締結式があり、同金庫の好岡政宏理事長は「市内に店舗も多く、どんどん協力したい」、バローHD無店舗事業部の白樫浩二事業本部長は「買い物客の利便性を高める取り組みでもありうれしい」とあいさつした。バスまちば事業は他県からも注目を集めており、新潟県長岡市が昨年導入し、神奈川県小田原市でも本年度中に開始予定。柴橋正直市長は「行政、

「バスまちば」を設置する協定を締結した柴橋正直市長(中央)と事業者ら＝岐阜市役所

市民、バス事業者、店舗それぞれにメリットがあるスキーム。全国に輪が広がれば」と述べた。

新たにバスまちばが設置される店舗は次の通り。

スーパーマーケットバロー都通店、ローソン岐阜鹿島町店、岐阜信用金庫うずら支店、ファミリーマート岐阜公園前店、ローソン岐阜北一色店、セブンイレブン岐阜西部本郷1丁目店